



1月のひらがなのお勉強

な、に、ぬ、ね、の

うた：お正月、ゆき、まめまき、今年もどうぞよろしくね

手遊び：おもちをやいたとさ

工作予定：お正月、氷・ペンギン、世界の音楽、節分



新年明けましておめでとうございます。

2016年も、どうぞ宜しくお願い致します。いつも遊学舎の方針にご協力とご理解をありがとうございます。子供達も遊学舎での生活になれ、お弁当を残さずに食べることの大事さ、フルーツなどのデザートは、お弁当を全部食べてからの楽しみと理解してくれています。元気にすくすくと成長していく姿が眩しいです。

<クリスマスパーティー 大成功>

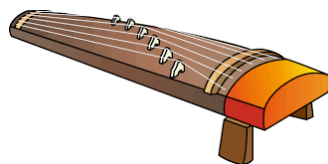
お歌の発表や、親子工作でいつもの子供達の頑張ってる様子がとても可愛かったですね。保護者の皆様、素敵なカードや、心のこもったプレゼントをたくさんいただき、職員一同とても励みになりました。

ありがとうございました。

<世界の音楽、特別ゲストのご紹介>

1月19日 アフリカジャンベ、コンガの演奏、紹介 ルビオさん

1月22日 琴の演奏にあわせて歌を歌いましょう 智子先生（遊学舎土曜日クラス担当）



<みほせんせい待望のコラム>

12月に予定していたコラムを掲載します！次号に続きますので楽しみに♡



美穂先生から 今回は・・・伝える力

冬休みを終えて、久しぶりに登園してきた遊学舎キッズ。「あけましておめでとうございます！」言った後に、ニタッと笑った顔を見て、「あっ、きっと家で練習してきたんだろうな・・・」と感じて、上手に本番で言えたことに私も嬉しくなる。実際には、「あけましておめでとう」と聞こえないのもあるのだけど…。(笑) 先生たちの耳には、特別な言葉の変換器があるのかもしれない。幼児教育に関わっていると自然と出来るスキルのひとつに、上手く表現できない気持ちを汲み取って言葉や感情に変換してあげる力が身に付く。もちろん 母親や父親にも わが子に対しては それはあるのだけど。

四方八方から聞こえてくる声と 子供たちの体から発してくる動作の音が、いろいろなメッセージを運んでくる。右の方から、嬉しそうにお気に入りのおもちゃのお話をしていいる子がいる。聞いている子も嬉しそうにうなづいているよう。左からは、お友達と上手にごっこ遊びをしている声。(あんな言い方しちゃうって、お家でお母さんが言ってる言葉を使ってるのかしら？笑) 頭の後ろの方から、「これは私の！」と厳しい声。(でも、まだ喧嘩には ならないな…。) そのもっと向こうには、ぎこちないハサミの紙をきる音が聞こえる。(もう5分も頑張ってるなあ～。集中している音だな。) そんな声音に囲まれている時が、実は 私は大好きです。



でも、その一方で、自分の気持ちを上手く言えずに困っている子がいないか…。気持ちと裏腹な事をしてしまっている子はいないか…。そういう“気配”を いち早く察知しなくては…と 時折、私の目は 灯台の光の様にぐるぐる回ったりしています。そして、そういった子供から発せられるその“気配”は ごく普通に 何度も何回も… 一日の中で発せられ、察知されます。



最近、小学校低学年の子供たちの「伝える力・聞く力」が 全体的に落ちてきていると聞いています。上手く意思表示ができず、何も言わず行動に出てしまう子が多い。又、「どうしたの？」と聞いて、子供達だけで解決する事ができない…。 実は、この二つの力は 自然と身に付くものではありません。その子の周りの大人(特に家庭で)が、どのように伝え合い そして、どのよう聞いているのかに 大きく影響されているようです。

当然、幼児期の子供たちは まだまだ自分の気持ちを表現する力を十分持っていません。「お母さんには言葉半分でも通じるのに、友達には通じない。」そんな壁にぶつかります。皆そんな時期があります。でも、壁はそれぞれに違いがあって、お家の方が察しすぎて、先回りして、言葉を代弁してもらっている子ほど、この壁は大きいです。そうなんです。子どもの要求に先回りして対応しない事。これは 大事なポイントなのです。

「でも、言い方がわからないだろうし…。」そう思われることでしょうか。確かに 気持ちを言葉で表現するって難しいですね。「楽しい」のか、「嬉しい」のか、「もっとやりたい」のか、「もう十分満足」なのか。「消しゴムをかしてほしい」のか、「消してほしいのか」。「手伝ってほしい」のか、「全部やってほしい」のか。 そのおもちゃで「一人であそびたい」のか、「友達と一緒に遊びたい」のか。どうしたいのか、その言い方・言葉の紹介は やはりしなくてははいけません。お家の方が、「～こう 言いたいのか。」と言い方を紹介した後、それを同じ様に、子供自身の口で言わないと身に付きません。そして、次回、「自分で言えるように覚えててね。」と促す事が大事です。



さて、1日何度も 先生の灯台の目に察知された子の気配は、その後 どうなるかと言うと…、大歓迎されます!! だって、それは、その子にとって「伝える力」を身に付けるチャンスのひとつとなるからです。 どちらかと言うと、「察しはするけど、先回りせず…言い過ぎず」を心掛けて、そして また 今日も 子供たちの声音に どっぷりつかるとのことです。

